

新座市の市立第二中学2年の大貫陵平君(当時13歳)が昨年9月30日深夜、「死にます ごめんなさい」との遺書を残し自宅マンションから飛び降り、自ら命を絶った。大貫君は前日、学校でアメを食べたことを教師か

ら注意され、その反省文提出の宿題を課されていた。自殺と学校の「指導」との因果関係は不明だが、保護者らは「大貫君の死を無駄にせず、今後の教育などに生かしていこう」と活動を始めた。【花野井 誠】

保護者ら教訓生かす活動

裸で話し合える場づくりを

アメを食べたことが分かった翌日の9月30日、大貫君は以前から決まっていた病院での検査のため、学校を休んでいた。夜、自宅にあって担任教師からの電話

死にます
ごめんなさい
たくさんバカなことして
もうたえきれません
バカなやつだよ
自爆だよ

じゃあね
ごめんなさい

陵平

学校の「指導」との因果関係は不明



「生命の応援団としての大人たち」の会合では、教育の在り方について議論が交わされた

◇大貫君の自殺をめぐる経過◇

- 9月29日
昼休み
大貫君がベランダで友達からもらったアメを食べる。別の男子生徒が生徒指導担当教師に見つかり事情を聴かれる。
- 午後3時50分ごろ
クラスの帰りの会で、生徒9人のかかわりが判明。
- 午後4時半ごろ
教師が事実確認のため会議室で生徒9人から事情を聴く。12人の教師が話を聴き食べたのが計21人と判明。
- 30日
午後9時10分ごろ
担任教師が母親にアメの件について電話連絡。
- 同50分ごろ
母親が本人から事情を尋ねる。
- 午後10時半ごろ
大貫君が飛び降り自殺。

大貫君に確認したところ、「ごめんなさい」と反省していたという。自殺は、その約40分後だった。

学校の20日の調査は、まず「帰りの会」で、アメを食べた生徒は名乗り出るようにと言ったところ、9人が食べたことが判明。さらに、放課後の会議室で、12人の教師が9人から事情を聴いて結局21人が関係していることが分かり、全員から反省文の提出を求めるというものだった。

「何でも学校の教のままでいい」というのは、指導の行き過ぎ」と主張する両親に対して、

大貫君に確認したところ、学校側は「指導ではなく、事情聴取なので行き過ぎもない」との立場だ。大貫君は、学校会議室で放送部長を務めるクラスのリーダー的存在だったことが、父隆志さん(43)は「断れば、自尊心が気がつけば、自虐心が一気につけっふちへ追い込まれる」と思い詰めたのでは」と話す。

これに対し、阿部監督校長は「アメとはいえず、徐々に悪い方向に行く。芽は小さいうちに摘むことが必要」としたうえで、12人の教師による聞き取りについても「2学年にかかわる

教師が立ち会った結果で、大勢で少数を脅すという意図はない」と説明する。

市教委は、この12人の教師から事情を聴いたうえで、「指導に問題はない」との意見を示している。大貫君の死を無駄にせず、今後の教育などに生かしていこう」と活動を始めた。

一方、自殺から2カ月たった11月末、教育の在り方を議論する場をと、両親の友人ら同校などの保護者らは「生命の応援団としての大人たち」(小松とし子代表)を組織して活動を開始した。今月20日に新座市内で開かれた2回目の会合には、大貫君の両親をはじめ保護者や教師ら約50人が参加。大貫君の母政江さん(43)から、自殺直前の詳しい経過などが報告された。

小松代表は「悲劇を繰り返さないためにも、裸で話し合えるようにしたい」と訴えている。

原因説明だけではダメ。浦和市でフリースクールを主宰する馬場章さん(54)の話。原因説明だけではこの教訓は生かされない。教師と親が同じテーブルについて意見を話し合い、子供が生きていく活動できる学校づくりが必要だ。